

創設80周年記念事業
募金趣意書

民藝に関する資料のアーカイブ化にむけて

日本民藝館





日本民藝館内観・玄関

日本民藝館創設80周年記念事業基金 募金のお願い

平素より、当館の活動に対しまして格別のご厚情を賜り、厚く御礼申し上げます。

お蔭さまで、日本民藝館は今年で創設80周年を迎え、柳宗悦が見出した「民藝」という新しい美の概念を映し出す約17,000点にも及ぶ蒐集品は、今も当館に大切に収蔵されております。

さて、日本民藝館の存在は、民藝の美を語り伝える場として欠かすことができません。同時に、この建物自体が民藝の象徴でもあります。つまり、単に展示会で民藝品を鑑賞することとは異なり、こうした貴重な場の中で蒐集品に触れ、民藝を体験し美を共有することに深い意義があるのです。

また、当館の使命は蒐集品の展示だけではなく、蒐集品を保存し、必要なものは修復しアーカイブ化して

後世に伝えていく役割や、民藝運動の発祥の地として、その運動の趣意を変えることなく残していく義務も担っているのです。

しかしながら、現実問題として建物の老朽化が進んでいることは事実であり、災害による蒐集品の破損などを未然に防ぐ対策や、研究対象の資料の保管・整理も急がれます。

日本民藝館は民間で力を合わせて、守っていかねばならない貴重な宝物です。創設80周年を迎えるにあたり、皆様には今までにも増してこの活動にご支援を賜りたく、ご協力の程よろしくお願い申し上げます。

平成28年10月吉日

公益財団法人 日本民藝館
館長 深澤直人



日本民藝館西館・長屋門外観

日本民藝館創設80周年記念事業基金 募金趣意書

日本民藝館は、民藝運動の活動拠点として、1936（昭和11）年に開設された民間の美術館（登録博物館）であり、現在の経営母体は公益財団法人として運営しております。主たる仕事は「民藝品の蒐集や保管」「民藝に関する調査研究」「展覧会などによる民藝思想の普及」です。

平成28年に創設80周年を迎えた当館は、開館以来その特色ある建物と所蔵品約17,000点を維持管理し、暮らしの美をテーマにした質の高い展覧会を国内外で開催するとともに、民藝美の価値や認識の普及に取り組んでまいりました。

民藝（民衆的工芸）とは、各地固有の生活文化を映し出す鏡であり、それぞれの地域に暮らす人々の「心」と「物」とが結実したものであります。そういった意味で、当館のコレクションは、我が国をはじめとする各国の文

化の正しい姿を理解するうえで、欠くことのできない存在であるといえましょう。

日本民藝館では、創設以来積み上げてきた、この文化的活動の成果とその有形資産を次代に継承するとともに、美の生活化を通しての将来にわたる生活文化の発展向上、多文化社会における相互理解と共生の歩みを推進させてまいりたいと考えております。

つきましては、創設80周年を契機に、当館では文化的活動の取り組みをさらに充実・発展させるため基金を募り、収蔵品や文献・画像資料の調査研究の推進、専門家に託する作品の修復の実施、展示空間や保存環境の改善などを進めていく所存であります。

皆様には、経済環境など厳しい折に恐縮ではございますが、今までにも増してのご理解とご支援、ご協力の程を切にお願い申し上げます。

平成28年10月吉日

公益財団法人 日本民藝館
理事長 岡崎真雄
(創設80周年記念基金募金実行委員長)

創設80周年記念事業基金

募金概要

募金名称 「民藝に関する資料のアーカイブ化にむけて」

募金目的 民藝運動の礎であり、その成果ともいえる蒐集品をはじめ、文献や画像などの資料を保存、整理、修復といったアーカイブ化を推進させ、より多くの方々がそれらを効果的に活用できるよう、それにふさわしい新たな環境を創出します。

- 1 「民藝アーカイブセンター」（仮称）の開設
 - ・西館（旧柳宗悦邸）施設内に「民藝アーカイブセンター」（仮称）を設け、アーカイブ化した資料を展示などで活用し、民藝の思想的意義や歴史的価値を幅広い世代の人々に伝える情報発信の場とします。
 - ・貴重な蒐集品を適切な環境下で保全管理できるよう、同建物内に収蔵庫を増築し本館収蔵庫の過密状態を解消します。
- 2 本館展示室の改良
 - ・本館大展示室の展示環境（作品の保全・照明の省エネ化など）を整備し、鑑賞者にとってより快適な展示空間に改良します。

募金目標額 2億円

募金期間 平成28年11月1日～31年10月31日（3ヶ年・平成32年5月竣工予定）

創設80周年記念事業基金

お申し込みについて

法人の皆様 1口 300,000円（ただし、1口未満でも10万円以上の金額からお受けいたします）

個人の皆様 1口 30,000円（ただし、1口未満でも1万円以上の金額からお受けいたします）

1口以上のご寄付いただいた方のご尊名・法人名を「民藝アーカイブセンター」（仮称）に掲示し顕彰させていただきます。また、施設完成記念誌・月刊誌『民藝』にもご尊名・法人名を掲げさせていただきます。なお、掲示を望まれない方はお申し出ください。

申込方法 ①個人としてお申込みいただく場合

同封の「振込（払込）用紙」は、寄付申込書を兼ねています。必要事項をご記入の上、郵便局受付窓口でお払込みください。その際のお払込みの手数料は無料です。

指定金融機関 ゆうちょ銀行（郵便局） 口座記号番号 00130-2-387764
〔口座名義〕日本民藝館80周年記念事業基金募金事務局

②会社・団体としてお申込みいただく場合

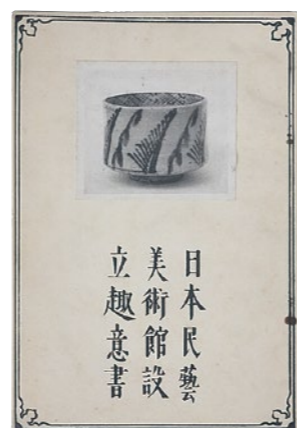
同封の「募金の申込書」に必要事項をご記入の上、基金募金事務局へお送りください。お申込みいただいた寄付金の額のご請求書を送付いたします。

ゆうちょ銀行の振込（払込）用紙をご利用の場合は、個人の方と共通です。

指定金融機関 みずほ銀行 北沢支店 普通口座 1410185
〔口座名義〕公益財団法人日本民芸館80周年記念事業基金募金事務局
*銀行をご利用の場合、振込手数料はご負担願います。

日本民藝館小史

- | | |
|-------------|------------------------------------|
| 大正15（1926）年 | 『日本民藝美術館設立趣意書』発表〔1〕 |
| 昭和9（1934）年 | 柳宗悦邸 長屋門移築・母屋建設工事着工
柳宗悦邸竣工（現西館） |
| 昭和10（1935）年 | 日本民藝館建設工事着工〔2〕 |
| 昭和11（1936）年 | 日本民藝館竣工、開館 |
| 昭和12（1937）年 | 財団法人日本民藝館 設立 |
| 昭和31（1956）年 | 創設20周年記念事業 本収蔵庫竣工 |
| 昭和57（1982）年 | 創設50周年記念事業 新館竣工 |
| 平成14（2002）年 | 平成大改修工事（本館・新館・西館） |
| 平成18（2005）年 | 創設70周年記念事業 旧柳宗悦邸復元竣工〔3〕 |
| 平成23（2010）年 | 公益財団法人に移行 |



〔1〕『日本民藝美術館設立趣意書』
1926年



〔2〕建築中の日本民藝館 1936年



〔3〕旧柳宗悦邸書斎

税制上の特典

日本民藝館は、「公益財団法人」の認定を受けています。公益財団法人への寄付金は税務上、所得控除（損金算入）の特典が広く認められています。

法人の皆様の場合
損金算入限度額の特例により、一般寄付金の損金算入限度額と同額以上が別枠として損金に算入できます。

個人の皆様の場合
個人からの寄付金は、確定申告によって、年間所得の40%を控除限度額として、前年1年間分(1月1日～12月31日)の寄付金額から2千円を差し引いた金額を控除することができます。
〔所得金額－（寄付金額－2,000円）〕×所得税率＝税額

以上の特典をお受けいただくためには、ご寄付いただいた皆様に対し当館からお届けする「領収書」を税務申告書に添付し、該当する金額を所得から控除して申告してください。

創設80周年記念事業基金

実行委員会

実行委員長	岡崎 真雄	あいおいニッセイ同和損害保険株式会社顧問
実行委員	曾田 秀明	つがる工芸店代表
	石丸 重尚	株式会社イシマルインテリアース代表取締役
	大原 謙一郎	公益財団法人大原美術館名誉理事長
	小川 弘	株式会社東京かんかん代表取締役
	柏木 博	武蔵野美術大学教授
	木田 三保	軽井沢ルヴァン美術館副館長
	志賀 直邦	株式会社たくみ取締役社長
	式場 隆史	医療法人社団式場記念会理事長
	中見 真理	清泉女子大学文学部教授
	中村 好文	日本大学生産工学部教授
	平野 良和	益子陶芸美術館名誉館長
	深澤 直人	NAOTO FUKASAWA DESIGN代表、日本民藝館館長
	別宮 美穂子	鈴木大拙館名誉館長
	舟橋 香樹	大日本印刷株式会社ICC本部長
	松方 峰雄	JALフライトアカデミー元代表取締役副社長
	水尾 比呂志	武蔵野美術大学元学長
	茂木 友三郎	キッコーマン株式会社取締役名誉会長
	山本 爲久	アサヒグループ芸術文化財団顧問
	湯浅 孝雄	富士ゼロックス株式会社元秘書室長

日本民藝館

お問い合わせ先

日本民藝館創設80周年記念事業基金事務局

〒153-0041 東京都目黒区駒場 4-3-33

Tel.03-3467-4527 Fax.03-3467-4537

<http://www.mingeikan.or.jp/>